

社会共創学部プロジェクト基礎・実践・応用演習概要（2018年度実績）

産業マネジメント学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
大学生と企業間の就業意識差に関する研究	ジョブカフェ愛work愛媛県若年者就職支援センター	曾我 亘由	求人者と求職者の間に存在する「雇用のミスマッチ」の問題に対して、「大学生の生活類型」と「社会人基礎力」との関連性について着目し、大学生が社会人基礎力についてどのような自己評価をしているかを明らかにした。また、愛媛県の若年者就職支援センターである「ジョブカフェ愛Work」と連携して、愛媛県内の企業を対象に就業意識についての調査を行い、学生と企業との意識差を明らかにし、「雇用のミスマッチ」を解消するための方策を提示した。
JR四国との連携事業に基づく旅行商品企画・実施に向けた調査研究	四国旅客鉄道株式会社	西村 勝志・谷本 貴之	プロジェクトの概要は、四国・愛媛県内に埋没している観光資源を掘り起こして光を当てつつ、マーケティング技法（経営技法）や会計手法などを駆使しながら、一連の調査研究に基づいた旅行商品開発を通して、地元に来なければ体験体感できない魅力を地域から全国あるいは世界に発信することである。その結果、リピーターとして再度呼び込めるような、地域観光の発展に寄与することが期待される。
愛媛における越境ECの現状把握と実践	松山商工会議所	岡本 隆	愛媛県の企業等における越境ECの取り組みについて調査し、現状と課題を整理する。また実際に越境ECに取り組んでいる企業に協力いただき、越境ECの実践を体験する。
愛媛県内企業の生産性調査	愛媛ニュービジネス協議会	徐 祝旗	2018年度は2つの調査研究を行いました。1. 救急車の適正配置 2. 愛媛県内企業の生産性に関する調査
地域企業の人材確保と若者の就職意識に関する調査	IRC	廣垣 光紀	地域の持続的発展において重要な要因となる地域企業の労働力確保について、地域企業の採用行動および新卒者の就業意識に焦点を当て調査を行う。採用側および被採用側が抱える課題やその解決策について取り組んでいく。
地域遺産とシビックプライド	松山商工会議所	山口 由等	明治の松山で、銀行、鉄道、新聞、電力の会社や商工会議所、高浜港などを創設した「坊っちゃん列車生みの親」・小林信近と明治期の産業遺産の調査を行った。また、小林信近に関係する会社や団体と一緒にイベントなどに取り組み、とくに、愛媛大学図書館での企画展示、「没後100年行事」で実施されたスタンプラリーの運営などを通じて小林信近の功績の発信を行った。
働き方改革が中小企業経営に与える影響	IRC	園田 雅江	愛媛県内の企業における「働き方改革」の取り組み実態を調査した。調査は、アンケート調査とインタビュー調査の2段階に分け、アンケート調査の分析結果から見出した疑問点や共通認識をインタビュー企業にヒアリングすることで、より具体的な事例として抽出した。その結果、「働き方改革」に積極的に取り組んでいる企業の共通点として「見える化」と「共有」を生産性の向上に繋げていることが判明した。さらに、「働き方改革」を「自社を見直す絶好の機会」と捉え、前向きに取り組む姿勢が企業経営にプラスの影響を与えていくのではないかと、という仮説を立てることができた。
AI（人工知能）導入による県内企業の雇用創造とロールモデル構築	愛媛NBC	折戸 洋子	AIおよび無人化技術の導入に関して、以下の3つの調査を実施した。一番目に、都市部と愛媛県内の大学生のAIに関する意識を比較することを目的に、大学生を対象としたアンケート調査を実施した。次に、AI導入が必要とされつつある製造業や金融業（銀行・保険等）、情報サービス業、保険、社労士、銀行、小学校、高校教員、製造業などに勤める社会人と、情報系研究者（大学教授）などの関係者専門家を対象に、今後の社会や地方でのAIおよび無人化技術導入に関するヒアリングインタビュー調査を行った。最後に、上記二つの調査それらの結果をもとに、明治大学村田ゼミナールの学生と協力し、学生や社会人を含む一般の回答者を対象に、一種の思考実験となるような質問項目を設けたアンケートを作成し、地域社会の無人化技術に対するに関する意識の調査を実施した。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
植物工場における原価管理、利益管理の必要性	なし	岡本 直之	多くの植物工場において完全工業簿記が用いられておらず、不完全工業簿記といういわゆるどんぶり勘定が用いられているようだ。これからの農業には、少人数で効率良く生産が行える植物工場が必要になるはずだが、より良い経営や利益のためには、完全工業簿記が必要なのではないかと考えた。 いくつかの植物工場を見学した結果、今後収益性を確保するために特に損益分岐点分析が必要であるとの結論に至った。
西条市の情報を発信するスマホアプリの開発	西条市	川口 和仁	本研究では、西条市の農業の実態について統計資料や「地域経済分析システム(RESAS)」を活用し、また実際に現地に足を運んで調査する。そして、地域に関する情報を発信しているWebページや農産物販売ができるアプリ(ポケットマルシェ)などの成功例を参考にしつつ、絹かわなすなど西条市特産の野菜などのあふれる魅力を発信するアプリを作成し、西条市の活性化に繋げる。
働き方改革が中小企業の経営に与える影響	IRC	崔 英靖	「中小企業は働き方改革を取り入れられるのか」をテーマとして、働き方改革実行計画の各要素の関係を検討した上で、働き方改革の実際の事例を分析した。その後、実際の中小企業における働き方改革の事例の中で大学生にとって魅力的なものを把握するためのアンケートを実施して、中小企業に対する提言を行った。

産業イノベーション学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
愛南町における漁船漁業と養殖業の推移	漁船関係者2名	松原 孝博 清水 園子 若林 良和	今回、愛南町の地域から要望があった愛南町の水産史の構築に向け、インタビューとライフドキュメントを統合した質的調査を行った。私たちは、愛南町における漁業・養殖業の推移を調査するために漁業は、カツオ一本釣り漁について養殖業はタイ養殖について調べた。調査の結果、愛南町の漁業・養殖業には、密接な関係があり、その当時の環境、技術など様々な要素が関わって水産業が発展していったことが分かった。
愛南町における沿岸海域の海洋状態および町内の道路状況の変遷	久良漁協 組合長	松原 孝博 清水 園子 若林 良和	愛南町水産史の構築のため、水産業の環境の観点から愛南町沿岸の海洋状態と町内の道路状況の変遷を選定し、インタビューなどの調査を行った。愛南町沿岸の海洋状態においては、養殖業の開始とともに悪化した。また、給餌する餌の変化により改善された。また、町内の道路状況においては、国道56号線の整備により、水産物の輸送時間の短縮や輸送手段の変化へと繋がった。さらに、今後も新たな技術革新により水産業の環境が変化することを示唆する結果となった。
家串・油袋地区漁業従事者の暮らし	家串、油袋地区に住む元漁業従事者5名	松原 孝博 清水 園子 若林 良和	愛南町の漁業従事者の昔の暮らしを知るため、今回は家串・油袋地区に焦点を当てインタビューを行った。家串・油袋地区は今では真珠養殖が盛んだが、昔は獲る漁業を中心に人々の生活が営まれていたことが分かった。また、複数人に同時に聞き取り調査を行ったが、似たような暮らしを行っていても各家庭での暮らしの違いを僅かながらではあったが知ることができた。しかし、今回は1つの地域に限定していたため、他の地区の漁業従事者の仕事や生活を知り比較することを今後の課題とする。
愛南町における真珠と真珠母貝養殖について	内海 真珠母貝養殖業者、真珠養殖業者	松原 孝博 清水 園子 若林 良和	古くから愛南町で真珠養殖、真珠母貝養殖を営んでいる養殖業者の方にお話を伺い、生活史としてまとめ、ライフ・ドキュメント分析などを行うことで愛南町における真珠養殖、真珠母貝養殖の戦後から現在までの歴史の変遷や、その変化が与えた生活への影響を調査した。すると、真珠養殖、真珠母貝養殖の両方に後継者不足という課題が存在していることがわかったので私たちに解決案を提案することにした。
工業的製法による芭蕉和紙の製造の検討	なし	藪谷 智規 秀野 晃大	芭蕉和紙とは、愛媛県の南予地方に多く植生しているバショウの茎から作成した和紙である。バショウの葉は棚節りに使われているが、茎は廃棄されていた。先行研究ではこの茎の繊維化に取り組み、ステンレスメッシュで和紙を漉くことに成功した。本演習では、工業的に芭蕉和紙を製造することができれば、廃棄物から商品(価値)を作り出すことがより現実化すると考え、蒸解時間に着目し標準手すき機での芭蕉和紙の再現を行った。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
名刺用紙の作製	なし	深堀 秀史	座学や実習等で得た知識を活用して既存の紙製品の持つ特性を達成できる紙の作製と応用力を身につけるべく、身近な紙製品の中から名刺用紙を選択して、紙の作製を行った。名刺用紙の持つ特性の中から印刷適性に絞って考え、様々な紙料を投入して紙を抄き、抄いた紙に塗工を行うことで目的の印刷適性を持つ紙の作製に取り組んだ。最終的には作製した紙に印刷をすることで製品を完成させる手順などを理解していった。今後はさらに細かい評価などにも取り組みたい。
「褥瘡(床ずれ)」を防ぐための装置	愛媛大学病院 理学療法士	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	「褥瘡」という病気があることを知り、愛媛大学病院の見学などから座骨部分の褥瘡で患者、看護師が困っているという現状を知った。褥瘡の発症理由としては半身麻痺などの人が無意識に体位変換を行わず、体重で皮膚が圧迫されることにより起こる。この課題を解決するために車イスのシート下に「ARDUINO」というマイコンで制御した測距センサを設置して、プッシュアップという予防活動を行ったか計測することで解決できるのではと考えた。
持続可能な社会実現のための雨水を活用したエネルギー発電システムの構築	なし	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	日本におけるエネルギー自給率の低さ、再生可能エネルギーの普及、電力の地産地消化といった、エネルギーにおける課題は山積みである。そこで私は、雨水を活用した新たな発電システムの構築を考え、水力発電における計算式の活用や定義づけを行い愛媛県における採算を求めた。電力的には照明器具を点灯できる程度だが、技術進歩により実現性が高まっていく。今後、災害時における緊急用の電力源として活用できる可能性もある。
CNFによる軽くて強い防護具の開発	愛媛県産業技術研究所、四国電力	高橋 学 八木 秀次 山本 智規 福垣内 暁	CNFによる軽くて強い防護具の開発をテーマとし、試行錯誤を重ね実験を行った。芭蕉和紙の特性に着目し、工業的特徴を持たせるため芭蕉和紙に樹脂を含浸させて真空状態で加圧、乾燥させ新たな素材が完成した。積層する芭蕉和紙の枚数と強度に何らかの関係があると考えたくさんサンプルを作成した。これからの展望としては、各種試験を行い詳しいデータを出すこと。また、ヘルメットや安全靴の先端部分のような立体形状にしてみることだ。
HSTを用いた低振動産業用モノレールの開発	光永産業 (支援)アテックス (支援)愛媛大学実習工場	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	愛媛県のかんきつ産業を支える産業用モノレールには「発進と停止の振動が大きい」という課題がある。その課題に対して地元の企業と共同で「低振動化」を目標に研究を行った。内容はHSTというトランスミッションの搭載を提案し、実物を用いた試作モノレールを作るため必要な部品の設計を行った。今後は試作品を作成し、実際に走行テストを行う予定である。将来的な製品化も念頭にこれからも研究を継続させていきたい。
柑橘の皮と実を分ける機械	なし	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	愛媛の柑橘について調べる機会があり出荷量に対して廃棄量が多いことを知った。気軽に皮と実が分けられる機械があると自分たちでみかんジュースなどの加工、販売を行う方が増え、今までは廃棄していた柑橘を商品にするのではないかと考えた。副業をするための機械であるためなるべく維持費等がかからないように複雑な構造ではなく単純な構造で皮をむくことができる構造を考え、CADで形を作製し3Dプリンターで実際に作って皮がむけるかどうか試している。
Bluetoothを用いた農業機器の遠隔操作	(支援)アテックス	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	私たちは農作業の負担軽減や安全確保という目的の元、Bluetoothを用いた農業機器の遠隔操作というテーマで取り組んできた。マイコン(Arduino)を取り付けた試験機(TETRIX)をパソコンとBluetoothで通信させ、パソコンのテンキーで試験機を遠隔操作した。現段階では前後進、右左折、停止を100m離れた位置から制御することができた。今後はセンサーやカメラを取り付けて安全面を向上させるつもりだ。このプロセスを活かして建設機械や小型の雪かき機にも応用していきたいと考えている。
AIを利用した赤潮プランクトン判定システム	愛媛大学南予水産研究センター	高橋 学 八木 秀次 山本 智規 清水 園子	宇和海海域では近年カレンア・ミキモトイを中心とした植物プランクトンによる赤潮被害が発生しており、その対策として、現在南予水産研究センターでは顕微鏡観察による判定が行われている。しかし、赤潮プランクトンの判定は熟練した研究者や技術者に依存しており、長時間に亘る労力を費やしている。そこでAIを利用することで赤潮プランクトンの判定を人に代わって高精度に実行するシステム開発とその運用について提案する。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
斜面における車体走行時の安定制御	愛媛県産業技術研究所	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	斜面を車体が走行しているとき、重力により谷側に車体が傾くため、横滑りや真っすぐ進まない等の現象が起きていることが分かった。また、これららの現象により、草刈り機や車いすにとって斜面が課題であるため、機械的に制御することで、多くの利用者が斜面を安心して走行できるのではないかと考えた。そこでArduinoと加速度センサを利用して斜面を検知したらハンドルの向きを変えて進路を安定させる仕組みを考えた。
Arduinoを使用した電気調光装置の製作	愛媛大学南予水産研究センター	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	南予水産研究センターには研究に必要なスマなどを育てている飼育室があり、電気の点消灯をした時に急な照度変化によるストレスのために魚が衝突死に至るケースがある。それを未然に防ぐために「使用している照明を調光できるようなものにできないか」という要望を受け、簡単に操作できる調光装置の製作に取り組んだ。今回は「Arduino」というマイコンを使用し、スイッチやLEDライトなどの機器を検討しながら実用に向けた製品を目指す。
3Dプリンターを用いたセルロースの積層	愛媛大学紙産業イノベーションセンター	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	高度な技術を用いた機能性濾紙などの積層したセルロースから作られたものがあることを知り、身近な材料を用いて3Dプリンターでも同様に作ることをできないかと考えた。Ender-3というプリンターを使用するにあたり、固体燃料しか使用できなかったものを液状のセルロースが使用できるように改造をしたり液状が射出した際に流れない様に様円形に穴を空けた鉄板の設計等を行ったりと、使用したい材料に適した改造を行った。

環境デザイン学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
モニタリングサイト1000里地調査における相観植生図の作成	NPO法人 西条自然学校・NPO法人 かわそ復活プロジェクト・愛媛自然環境調査会	渡邊 敬逸	本プロジェクトでは、八幡浜市八代地区と東温市上林地区で行われている里地里山生態系のモニタリング事業「モニタリングサイト1000里地調査」に参加し、両地域で未実施であったモニタリング項目である相観植生図の作成を実施した。本プロジェクトの目的は、ステークホルダーとの相観植生図の共同作成を通じて、①各種モニタリングの基礎となるデータを作成すること、②学生自身が社会的課題を能動的に解決しようとする市民調査者としての自覚を得ること、③学生が市民調査者として参加することで調査主体の多様性や持続性に寄与すること、にある。本モニタリング事業は少なくとも100年続く超長期事業であるため、上記の目的を念頭に置きながら、今後も関与していきたい。
西日本豪雨における斜面崩壊分布特性と土砂の流動状況	なし	ネトラ・プラカッシュ・バンダリ	GIS解析法を用いて各種地図情報を基に斜面崩壊地の分布特性を把握する。県の指定危険個所以外でも崩壊が発生、主要道路が河川沿いにあるなど本来つくべきでない場所にあるなど問題が明らかになった。2つ目に、土石流は崩壊堆積多到達距離がどのように関係しているかという事を調査し、今後正確なハザードマップを作成できるようにした。土砂の流動距離は崩壊地の大きさというよりは標高差がより強く影響を与えていたのではと考えられる。
宇和島市における使用済み天ぷら油の更なる活用拡大に向けて	宇和島市役所、宇和島市民、使用済み天ぷら油を用いて生産活動を行っている企業、重機・トラック・バスなどディーゼルエンジン使用車を利用する企業	李 賢映	私たちは宇和島市における使用済み天ぷら油（以下、廃食油）の更なる活用拡大に向けてプロジェクトを行いました。特に、家庭から出る廃食油の回収及び活用の拡大に分けて考察しました。回収量拡大に向けては宇和島市民にアンケートを行いました。活用の拡大に向けては関連ステークホルダーにヒアリング調査を行いました。宇和島市担当部署と調査結果を基に今後の廃食油の回収及び活用拡大に向けて協議も行いました。そして、廃食油の更なる回収及び活用の拡大に向けては、関連ステークホルダー間でより頻りに協議し、認識の共有を高めていく必要があるあるという結論に到達し、その実現に向けて努めることになりました。
棚田保存の市民ニーズ調査	榎谷棚田保存会	入江 賀子	棚田は景観や土地利用の点から見て、今後も保存していく事が望ましい重要なものである。しかし、後継者不足など様々な要因によって棚田の保存が難しい現状がある。その為、棚田保存を続けるためにはどのような方策をとれば良いかを考えていった。県内の棚田保存会の方へのインタビューやネット上でのアンケート調査を通して、保存に繋がる要因を探った。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
八幡浜移住定住促進プロジェクト	八幡浜市役所、八幡浜に移住してきた方、八幡浜市内のお店	片岡 由香	八幡浜の移住定住を促進するために、パンフレット作成を目的としたプロジェクトである。実際に街歩きやインタビュー結果をもとにした店舗調査を行い生活のイメージが出来るような情報を集めた。既存のものはあるが、移住を考えている人が本当に求めている情報をアンケートやインタビューを通して集め、八幡浜の魅力を知るきっかけになるようなパンフレットづくりを目指した。
のむら復興ソング番組プロジェクト～頑張ってみるけん応援してやなあ～	西予市、野村小学校、杉田氏 (INSPI)、西予CATV、野村小学校合唱部	羽鳥 剛史	西予市野村町では、平成30年の豪雨災害からの復興に向けて、野村小学校の子ども達とアカペラグループ「INSPI」リーダーの杉田氏が力を合わせて、野村町の魅力や復興への希望を謳った復興ソング「のむらのうた」の制作に取り組んでいます。本プロジェクトでは、この楽曲製作のプロセスを私たち学生が記録すると共に、現地でのレポートやナレーションを加えて、一つのドキュメンタリー番組を制作します。この番組制作を通じて、野村の魅力や思いを再認識するとともに、西予市の人々へ発信することにより、野村の復興に繋げることを目指しています。
クラウド型地震火災延焼避難シミュレータを用いた防災教育効果の評価	行政、自主防災組織、小中学校児童生徒、一般市民	二神 透	日本は地震の活動期に入り、今後30年以内に南海地震や首都直下型地震が70～80%の確率で起きると想定されている。地震の二次災害として最も危惧されているのは、密集市街地の地震火災である。そこで、私たちのプロジェクトでは防災教育によって住民の地震火災に対する防災意識を高めるため、火災延焼シミュレータの操作方法を学びました。また、シミュレータを操作する事前事後で災害リスク認知度の向上がみられるかどうか明らかにするため、大学生にアンケート調査を行いました。実際にシミュレータを体験してもらって、気象条件や避難経路に関する意識が高まることが分かりました。
石手川ダムアクティビティー活用の可能性の考察もしくは変わっちゃおうぜ石手川	国土交通省松山河川国道事務所・国土交通省松山河川国道事務所石手川ダム管理所	松村 暢彦	現在の石手川ダムは、都市近郊のダムとしてアクティビティー活用のポテンシャルが高いにも関わらず、周辺空間の利活用がなされていないのが課題である。加えて、松山市民の休日の過ごし方で公園などの公共施設の利用が少ないことも明らかになった。そこで、私たちは「ダム」×「遊び」＝「非日常」というテーマを設定し、石手川ダムアクティビティーで参加者の協力や発見を通して非日常を体験できる学習体験型キャンプの実現可能性とダムに対する態度変容効果を明らかにした。
松山市北条地区南部3河川5流域における土地利用と流域環境との関係解析	なし	大森 浩二	松山市北条地区の5流域にて採取した河川水・植植物とGISにおける植生図や土砂崩れ箇所との対応関係を明らかにするという目的の下、調査・分析を行った。採取した植植物の同定・水質分析とGISを用いて5流域の特性を明らかにした。流域周辺の植生や土地利用が水質に影響を及ぼし、それにより水生生物の生育にも関係していると言える。5流域のうちSS値が高い西の谷0流域において多くの土砂崩れ箇所が見られた。松山市の防災マップに示された崩壊危険箇所と実際に目で確認した土砂崩れ箇所とのずれがあることが分かり、実際に土砂崩れが起きている箇所は竹林・常緑果樹園に集中していることが統計分析等により判明した。また、常緑果樹園では一部平坦な場所でも土砂崩れが起きていたが、果樹の密度なども要因として推測された。
学内紅葉ライトアップ	東雲小学校児童クラブ、UDCM尾崎先生とDJをご担当いただいた方々工学部の野村教員	片岡 由香	ライトアップイベントでは、愛媛大学のメイプルプロムナードの紅葉を見にこられた方々に、温かい飲み物を提供した。学外からの来訪者を呼ぶ仕掛けとして、大洲和紙を使った灯籠を用意し、東雲小学校の児童クラブに依頼して、和紙に児童らの絵を描いてもらい、子供たちの灯籠を紅葉ライトアップの足元に設置して演出した。また、期間中は学内の関係者にレコードによる演出 (DJ) やジャズ演奏を行なってもらい、少しでも足をとめて楽しんでもらう企画を実施した。
椋谷棚田オーナー制度のニーズ調査	個人農家の方々、棚田保存会オーナー制度参加者	入江 賀子	美しい景観で知られる、愛媛県大洲市にある椋谷棚田を保全するための手段の1つとして、棚田オーナー制度に注目した。まず、個人農家や棚田保存会に対する事前インタビュー調査の内容を参考にして、第1回ニーズ調査 (web調査) を実施した。その結果を踏まえ、第2回ニーズ調査 (web調査) を選択実験という手法を用いて実施した。これらのニーズ調査の結果に対し、統計的な分析を行い、棚田保存会がニーズに合ったオーナー制度へと改善するためのご提案をした。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
八幡浜市大島プロジェクト	大島テラス関係者、大島区長、地域おこし協力隊、八幡浜市役所、みなと交流館	片岡 由香	大島プロジェクトでは、八幡浜市の小学生を対象に、大島の魅力を知ってもらうため、3月16日にシーグラス拾いと植物観察ツアーを企画している。拾ったシーグラスは写真立てなどの製作に使い、摘んだ野草は天ぷらにして食べる予定である。このイベントをきっかけに、大島の良さを感じてもらい、また家族で訪れてもらうことを目指している。
地域防災学	小学校、町内会	二神 透	研究室での座学、活動の説明等の後に地域の町内会で防災の知識をつけるための勉強会や交流を行ったり、小学校で児童達と町歩き、レクリエーションを通して防災啓発活動を行う。
遊子地区防災計画	遊子小学校、地域おこし協力隊（遊子地区）、遊子漁業協同組合、遊子地区自治会	松村 暢彦	南海トラフ地震の起こる可能性が高まっている中、いつ起きても迅速な対応をとれるよう準備をしなければいけない。その中でも、少数人口、漁業、段畑などの特徴をもつ、宇和島市遊子地区を対象に、地域の特色を生かした防災活動を行うことを目的とした。活動としては地域と協力して実施できるような防災学習プログラムを収集し、分類を試みた。今後、小学校の教育課程の一環として取り組めるような内容の防災活動を提案し、小学校や他のステークホルダーと協力して、実践に向けて取り組んでいく予定である。

地域資源マネジメント学科農山漁村マネジメントコース

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
久万高原町の地域運営について	久万高原町、久万高原町住民	コース教員	久万高原町の3地区を対象として、地域運営協議会を通じた地域活動のあり方について調査・検討するとともに、現地での活動にも参加した。あわせて、この先進地視察として島根県の2地域にも訪れた。対象地域においては住民の移動手段の確保や観光を通じた地域外住民との交流が重要であり、こうした取り組みを地域運営協議会が中核的存在となって展開することの意義が見出された。さらに、地域住民自身による地域への関心や主体性、また一過性にとどまらない、学生と地域との継続的な関わりによる活動が、今後の地域運営に大きな価値を持つものと考えられた。
参加型から企画・運営型への挑戦 ～ 私たちにできたこと～	伊予市住民	コース教員	愛媛県内において、地域での活動に学生が単に参加するだけでなく、学生自らが企画・運営した活動を展開することを目的として対象とする地域・事物を模索した。そのうえで、伊予市中山町佐礼谷地区において「黄色い丘プロジェクト」を立ち上げ、1年を通して観光客が来訪する仕組みづくりやイベントの企画、実際の観光客対応を行った。これらのなかでは予期せぬ失敗を経験することもあったが、コーヒーや手作りクッキーの販売、昆虫クイズなどの企画は好評であった。今後も継続的にプロジェクトを実施することで、地域にとってさらに重要な活動となりうることを期待できる。
農産物の流通販売を考える –卸売市場の流通について東京都と松山市中央卸売市場の実態から–	東京中央卸売市場 松山市中央卸売市場	コース教員	日々の食生活を支える食料供給機能を担う卸売市場を対象として、現在および今後の農産物の流通販売のあり方について調査・検討した。東京都と松山市中央卸売市場の比較を通じて、同じ農産物であっても異なる産地から供給されている場合や、1年を通じて安定的に農産物が確保されている実態が明らかになった。中央卸売市場による市場流通が全国で安定的に生鮮食品を供給する機能を把握するとともに、その一方で地産地消・市場外流通が盛んに行われているのはなぜか？という疑問の提示を通じて、他のグループと連携した活動を展開することができた。
農産物の流通販売対応を考える –大型直売所の比較研究–	JA周桑 JAおちいまばり JAえひめ中央 JA系島	コース教員	全国的に増加・大型化傾向にある農産物直売所に注目し、愛媛県の大型直売所3店舗と福岡県の大型直売所1店舗を対象に、その特徴の把握や直売所同士の比較検討を実施した。これらの大型直売所では、単に店舗での農産物販売を行うだけでなく、販売促進に向けた生産者、店舗それぞれによる工夫、地域企業や学校給食への食材提供、他地域の農協との連携による多様な農産物の確保などが展開されていた。一方で、繁忙期における人手不足が共通する課題になっており、幅広い勤務・雇用体制の創出が必要であることが明らかになった。

地域資源マネジメント学科文化資源マネジメントコース

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
愛媛県上島町における製塩業の歴史の文化資源としての保護と活用	上島町教育委員会、上島町住民	村上 恭通・榎林 啓介 淡野 寧彦	愛媛県上島町においては、かつて製塩業が島の重要な経済活動として機能し、人々の生活と結びついてきた。こうした製塩業の歴史を文化資源として保護・活用することをプロジェクトの目的とした。製塩業末期の1950～60年代に塩田業務に従事した島民や塩田経営者の子孫に対する聞き取り調査では、当時の製塩業が島の産業として大きな価値を持っていたことが確認できた。また塩田跡地としては明文化されていない様々な場所の踏査を通じて、地域の製塩業の歴史のさらなる掘り起こしを行うことができた。
山仕事と食・暮らしにまつわる民具の調査とその活用法の検討ー内子町小田の旧郷土資料館・小学校での実践を事例にー	内子町教育委員会、内子町小田自治センター、小田地区住民	井口 梓	愛媛県内子町小田地区は、かつて林業で栄え、当時の人々が生活の中で使用していた民具が数多く残されているが、その適切な保存や活用が急務となっている。このプロジェクトでは、林業(元)従事者らへの聞き取り調査を通じて、当時利用された道具の役割を明らかにしたうえで、その内容をまとめた現地での成果発表会や地元小学生への授業、さらに旧小田郷土資料館の一日限定復活による民具の展示などに取り組んだ。これらから、民具の保存・活用を起点とした地域の内発的活動を呼び起こすことができた。
愛媛県大洲市における産業・文化・生活に関する実態調査	大洲市、大洲市新谷地区住民	寺谷 亮司	愛媛県大洲市を対象として、中山間地域における栗の栽培と農商工連携、地域に根付いた日本酒製造業の特色と酒類消費の特徴、地域に伝わる郷土食の特色とその継承のあり方、幼少期に大洲市へ疎開した漫画家の松本零士との文化的交流、平成30年7月豪雨による水害などの影響といった、多角的な視点から地域の実態と活性化に向けた方策について検討した。これらの内容を取りまとめた成果報告書を作成するとともに、現地での成果発表会を実施した。
八幡浜班活動報告～黒いソーセージの販売促進活動を通して～	八幡浜みなと、西南開発	大谷 尚之	愛媛県八幡浜市の地域振興を目指す取り組みに参加し、八幡浜市が発祥地とされる魚肉ソーセージ製造の調査や、その技術を生かした新たな魚肉ソーセージの販売促進活動に携わった。この活動を八幡浜みなとにおいて実施する中で、来訪者に対する魚肉ソーセージの新しい食べ方の提案や、魚肉ソーセージに対するイメージや消費動向に関するアンケート調査を実施した。これらを通じて、消費者に対する食べ方の提案やストーリー性の提示が重要であることがわかり、こうした事柄を重視した地域産業の展開が期待されることが明らかになった。

地域資源マネジメント学科スポーツ健康マネジメントコース

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
テレビの未来を問う～eat朝日愛媛テレビ×大学生コラボプロジェクト～	愛媛朝日テレビ	牛山 真貴子	テレビ局において、番組制作・報道・ビジネスコンテンツ・営業の各部門を視察及び現場を体験した。またテレビ局主催・共催の各種（スポーツ他）地域イベントに参加し、現場を作るスタッフとの積極的なディスカッションや情報収集現状分析を行った。さらに、若者のテレビ離れの解決を課題として設定し、アンケート調査・分析の結果に基づいた企画を提案した。
愛媛マラソンのブランド力向上プロジェクト	愛媛マラソン事務局	山中 亮	地域の誇るスポーツイベントのブランド力向上プロジェクト「スポーツボランティアの充実に向けた取り組みを通して」 【データ分析と改善案の作成】プロジェクト基礎で実施した現状把握をもとに、愛媛マラソンのブランド力向上につながる改善案の作成に取り組んだ。本取り組みにおいて、プロトタイプ案として、ボランティア責任者をサポートする役職設定の提案と実施を進めた。
松山市総合コミュニティセンターにおけるスポーツ教室開催による地域スポーツ活性プロジェクト	松山市文化・スポーツ振興財団	浅井 英典	本プロジェクトでは、地域に在住する住民の多様な年齢、身体的状況に即したスポーツ教室の企画・立案、運営能力の涵養を目指した。松山市文化・スポーツ振興財団の協力を得て、プロジェクト基礎、実践演習においては、住民の身体活動の促進と健康増進を目指した様々なスポーツ教室に参加することで、課題発見に努めた。プロジェクト応用演習では、見出された課題を解決すべく、様々な手立てを活用し、スポーツ教室の企画・運営を行った。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
地域とスポーツをメディアでつなぐプロジェクト	愛媛CATV、他	野口 一人	地域とスポーツをメディアで繋げることをテーマに、愛媛CATVと活動を共にした。『えがおスポーツ広場』という番組を通じて地域の取り組みを紹介することになり、取材先として愛媛大学総合型地域スポーツクラブを取り上げた。学生は教室との事前連絡、当日の撮影、担当する学生へのインタビューなどを分担した。「スポーツ&プログラミング教室」、「キッズバスケット教室」など合計6教室の撮影を行い、実際の放映を通じて市民に教室の活動紹介することができた。
地域活性化の為に健康増進活動を通じたプロジェクト	えひめ高齢者ヘルスプロモーション研究会、愛媛県ノルディック・ウォーク連盟	小原 克彦	高齢者の健康長寿の延伸を目指した活動である『道後ゆけむりツデーウォーク』事業への参加を通して、イベントを主催する上での様々な実務を経験した。さらに、アンケートを通して今後の課題を検討した。また、高齢者を対象とした健康ウォーク教室、幼児・小学生を対象としたスポーツ教室（忍者ナイン）にスタッフとして参加し、運動指導の実際を勉強すると共に、すべてのライフステージにおける運動の重要性を学んだ。
高齢者の身体活動普及プロジェクト：インフルエンサーに向けた講習会を通して	松山市シルバー人材センターなど	山本 直史	本プロジェクトでは、地域住民が主体となって運営されている運動系のサロンや自主サークルに着目した。複数のサークル等の視察・ヒアリングから、リーダー的役割を担う方が存在すること、およびそれらの方々は活動内容の充実させるための情報を必要としていることが分かった。そこで、リーダー的役割を担う方々に対して詳細なニーズを聞き取るためのインタビュー調査を実施し、その後、サークル等で実施可能と思われる活動内容を考案し、それを講習会を通じて提供した。

(2018年度実績)